

# 第81回長崎高教組定期大会 運動補強の討論相次ぐ



## 高教組は一人ひとりを大事にする太陽だ

長崎高教組は第81回定期大会を6月26日、大村市民会館で開催しました。大会は、出席代議員57人すべての賛成を得て運動方針や予算など原案通り可決しました。

今大会の特徴として、ある代議員がイソップ物語にたとえて「行政当局のやることは北風ばかり、対して高教組は一人ひとりを大事にする太陽だ」と発言したように、高教組運動を補強し自信と期待を持つことが随所で強調されたことをあげることができそうです。各職場から方針に沿ってとりくみをすすめる元気を次号以降で紹介していきます。(代議員による討論の要旨は)



発行  
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号  
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合  
☎ (095)-827-5882  
FAX (095)-826-2976  
編集責任者 平井秀治  
一部 10円

高教組メールアドレス  
naga-kks@fs  
inet.or.jp

大会は、常任議運に宮崎西彼支部長、加藤北松支部書記長を、議長に鈴木長崎支部書記長と日高老岐支部書記長をそれぞれ選出。

○ 平井執行委員長は、その挨拶(下欄参照)で3つの点から高教組運動を解明し、高教組を強く、大きくする必要を述べました。

中央の日高教から佐古田副委員長が出席し、「長崎高教組が再生にかける強い決意を議案書に読み取ることができる」と挨拶した上で、「私たちの運動が世論をつくり政治を動かしている」と述べ、組合運動の意義を確認し

ました。また、高教組の多くの先輩たちが結集する高退教の伊東会長(77)は「昭和50年、最後まで楽しく人生を全うしようという高退教がいま350人になっている」ことを報告。「町内会費と高退教会費と混同してしまう高齢の会員もいるが」と会場を沸かせ、「歳はともないうちの勘定はできるの、引き続き高教組運動を手伝う」と挨拶。さらに伊東会長は「学校をつくるのは教職員である」として、参加者を激励しました。

### 中心に組合員がいた

大会宣言を読んで提案したのは、小松代議員(西彼農)。小松さんは組合加入のきっかけを「職場で組合員の先生方が学校の中心として動かれ、父からは『組合に入っていないければダメだ』と諭されたこと」をあげ、今後とも加入のとりくみをすすめることも併せて決意を表明しました。

1つは、長崎高教組が取り組んで来たことに確信を持ち、職場の声を大事にして、力を合わせていこうということです。

今年2月に実施した「臨時採用・非常勤職員に対するアンケート」に答えた30歳のある女性、取り組んでほしい要求項目として、「正式採用者を増やして」や「採用試験の選考基準、選考過程を明らかに」、「職務を正當に評価して」などをあげたうえで、高教組に対する意見を丁寧な字で次のように書いています。

「学校で働きたい、教師として働きたいという気持ちがあるので、臨時採用でも働けるなら、と待遇に関しては疑問に思ったり不満に思ったりしても、言っていないものかどうかわからないところがありました。実際、どこにどう言えいいのかかわかりませんでした。今回の待遇改善(4月1日採用)を知り、これから正規採用を目指すにあたって、安心して長く働くためには、自分たちの待遇については、もっと関心を持たなくては、と思いました。たくさんの方々に応援をうけたいと思っています。ありがとうございます。」

長崎高教組は、ひとりの小さな要求でも見過ごすことなく私たちの要求として掲げ、その実現に向けて人を立て、カネを出し、モノを書き、交渉や折衝を重ねて、やっとこのように通知を發す

(裏面に続く)

## 夏が来れば、夏季教育研究集会

- 8月10～11日 ● いこいの村長崎(高来町 例年と違う! 場所です!)
- 講演・青砥 恭 関東学院大学講師 (※高校中退問題に詳しい元高校教師)
- 領域別分科会 (平和、生活指導、中退、学校づくり、職場づくり、学校図書館) で協議

### 第81回定期大会

平井秀治執行委員長挨拶  
(一部紙面の関係で省略)



運動に確信をと挨拶する平井委員長

2つに、私たちの長崎高教組を強く、大きくする必要があるということです。

いま教育行政の最大の課題は、教職員の不祥事を出さないということにあるようです。

5月上旬、中学校の教員が酒気帯び運転で逮捕された、県教委は懲戒免職の処分を講じました。その処分を講じたこと、宛に「教職員の綱紀の保持について」の通達を出していることでしょうか。教職員の不祥事根絶と信頼回復に向けての指導の徹底を求めました。

「管理職員」には「自らの指導の在り方や自校の取組について総点検を必行すること、すべての教職員は「不祥事を絶対に起こさない」という強い決意をもって、日々の教育活動に全力を傾注すること」としています。

このように通知を發す

いるのです。実現して職場で喜ぶ人がいる、救われる人がそこにいるという組合運動の原点を見ないでしよう。生徒の能力を豊かに引き出し、夢が叶うよう日々、生徒に働き掛けるという教育の営みと同じ運動方針が長崎高教組に貫かれているのです。私たちが展開しているとりくみは実に多彩でありますが、大義あるとりくみです。自信を持って各職場から要求がどこにあるのか、どうすれば要求に応えることができるかを今後とも追求していきましょう。

